

やまがら

2025年
春号

No.58

松山市議会議員

梶原ときよし

会派：新風会（市政監視を行う無所属3人）



やまがら（山雀）

毎年、冬には自宅に来てくれます。

あなたが尊重される社会へ

- 松山市立の総合病院を設立し、市民の命と健康を守ろう！
- 官民癒着や税金の無駄遣いをやめさせ、高い市民負担を軽減させよう！
- 教育と子育て予算を増額し、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換させよう。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍する街にしよう。
- 伊方原発をやめて、自然エネルギーへの転換を促進しよう。（PPS電力の利用促進）
- 命、人権、環境、平和を大切に、子どもたちに安心未来を引き継ごう。



発行・梶原ときよし

松山城 城山崩壊事故(3人死亡)

2024年7月12日発生

野志市長

災害予見回避不可能と責任取らず!!

業務上過失致死傷害罪を恐れ逃げる?!

被災者救済せず

請願書

松山市緑町における土砂災害に関する、客観的な検証および住民説明会等の改めて開催を求める。

2月28日付愛媛新聞の社説では、「市長の被災者に向き合えない姿勢が住民との溝を深めた」と批判しています。

どうも、野志市長の意識が変わるか、或いは市民が市長を変えるるか、被災市民の「幸せになろう」とは実現しないように思えてなりません。

私、新風会・梶原時義は120分間、市民の命と健康を守り、税金の無駄遣いをさせないために市政を監視する立場から全力で質問に入ります。

(2面へつづく)

2025年3月議会（抜粋） 新風会代表質問 梶原 時義

2025年3月3日

4期目の野志市長も、城山崩壊事故で化けの皮がはがれたと言っても過言ではない責任逃れ発言の連続で、事故から7か月以上も被災住民を置き去りにしておいて、やっことして2月24日に関した事故説明会でも、僅か15分間の説明でいきなり「松山市には責任が無く、補償はできません」と冷たく言い放ちました。

被災住民の怒号の中、第三者を入れての検証や再度の説明会要求に対しても、野志市長は開催すると言いませんでした。

2月28日付愛媛新聞の社説では、「市長の被災者に向き合えない姿勢が住民との溝を深めた」と批判しています。

主な請願事項は
1 緊急車両用道路の設計・施工・管理等について、外部の専門家（第三者）も参加する客観的で適切な検証の実施と、検証資料・議事内容等の開示を要望いたします。
2 市に提出した質問状・要望書に対する十分な回答と、住民の理解が深まるような説明会の開催を要望いたします。



請願に賛成討論を行う
梶原議員

7ヶ月放置しておいて、15分説明したら説明責任を果たしたと考えているのか、1度の説明会で幕引きを図りたいという姿勢が見え見えでは、住民の不信感が増すばかりであり、何度説明会を開いても市長も議員も職員も真剣に被災者市民に向き合う必要があるという事を申し上げて私の賛成討論とします。

被災住民からの請願は、市長与党の立場に立つ「自・公・ともに」等が反対し
否決されました。
何を考えているのでしょうか?!



61年間続けた

高齢弱者
見殺しか!!

野志市長はもう限界ではないか!!

はり・きゅう助成を突然廃止!!

梶原議員の質問



セブンスター石手店の近くにあるバス停にベンチを設置してほしいという高齢者の願いを無視する野志市長が言う「幸せになるうつ」とは何なのか。

バスで買い物に来て、バスで帰る高齢者が、バス停にベンチがないために重い荷物を持って、立ってバスを待たなければならぬのが（特に夏の暑い時期）本当に辛いので何とかしてほしいと、私の住んでいる湯の山の住民から相談を受けたのが、2021年夏の終わり頃で、当時の都市整備部の部長と話し、現状を訴え解決策を求め、伊予鉄バスをはじめ地元町内会などに設置をお願いを行ったがベンチ設置費用が出ないとの理由で今日まで実現していない。2022年6月議会と昨年の12月議会で取り上げたにもかかわらず、無視をし続ける野志市長の人間性を疑わざるを得ない。

野志市長は、夏の暑いときに重い荷物を持ち、立って待たされている高齢者がいても、何とかしてあげようと思わないのか。



都市整備部長の答弁
バス停のベンチは、基本的には、利用者の利便性向上のため、事業者が設置するものですが、国や県の管理道路にあるバス停に、本市がベンチを設置することは困難であると考えています。高齢の利用者が多くなるなど周辺環境に変化があれば、事業者や道路管理者、地元住民と協議していきたく考えています。

バスを利用する高齢者や市民が本当に困っている現状を知りながら本市が設置する予定はないとし、それを放置する野志市長の政治姿勢と本市市民3人が亡くなった城山土砂崩れ事故の説明会開催を求める被災地区住民に対し、それを拒み7カ月も放置してきたことに同根を見る気がしてならない。

本市国民健康保険はり・きゅう助成制度の突然の廃止は、市民の健康増進計画と鍼灸師の経営計画を阻害するものであり、撤回して段階的に縮小するなど、激変緩和措置を取った上で再検討すべきではないか。

梶原議員の質問



本年1月22日出した通達で3月末日をもって廃止するとした国保のはり・きゅう助成制度の廃止は、あまりに急な話で

利用している市民や鍼灸師に命の問題として大激震が走った。国保会計の単年度赤字が2022年度、2023年度と2年続いたのが主な理由のようだが、形式収支は13年間連続で黒字であり、厳しい財政状況とはいえ2023年度も約28億4000万円が2024年度に繰り越されている。過去、61年間にわたり助成制度を続けてきた意義は何か。

福祉推進部長の答弁



まず、はり・きゅう助成の歴史的経緯ですが、本市国保では、昭和39年4月1日に「松山市国民健康保険はり・きゅうの施術規則」を施行し、保健事業として、はり・きゅう助成を実施してきました。

次に、医学的見地ですが、はり・きゅう施術は、古くから東洋医学の分野で有効な治療法として認められていると認識しています。

単年度赤字とはいえ、形式収支は13年連続で黒字であり28億円も繰り越しており現状での廃止はあつてはなりません。

梶原議員の質問



高齢化の進行に伴い若干の利用者数の減少はあるが、2023年度の利用者は2425人で利用回数は3万2278回であった。健康保険の適用がない東洋医学に頼る高齢者にとっては、1回1000円の助成金に頼るしかない。医療費削減効果が見込まれるはり・きゅう助成を打ち切るとは、国保会計改善にはつながらず、逆に医療費の増大で赤字拡大につながる可能性があると考えざるを得ないか。

福祉推進部長の答弁



はり・きゅうの施術による医療費削減効果と、廃止後の医療費増加額は、公的機関による具体的な算定方法が示されていないため、試算することができません。

梶原議員の質問



廃止した場合の鍼灸院の減収はどの程度と想定しているのか。また、利用者の年間負担増はどの程度と想定しているのか。

福祉推進部長の答弁



施術所の経営状況は把握していません。また、利用者の年間負担増についても、廃止後の利用者個々の動向が不明であるため、想定することはできません。

1月22日に、はり・きゅうの施術所に文書通達をして、3月31日での廃止はあまりに急な話だと、市民や鍼灸師から私のところに市政に対する怒りのメールが届いたが、急な廃止は鍼灸院経営に大きな打撃を与えるものであり、また利用者の健康管理計画にも影響を及ぼすことは必至である。仮に単年度赤字を理由としても、形式収支は13年連続の黒字であり、十分な告知期間を持ちながら、現状の月8回までを4回までにするといった段階的な対応と取る等の対応が必要ではないでしょうか。再検討が必要ですよ。

■梶原時義の請願賛成討論

新風会の代表質問で、事故から7ヶ月たつてやっこのこと2月24日に関した住民説明会だが、「市長は被災住民に事故の責任を含め十分納得していただけたと思うのかイエスかノーで答えよ」という私の質問に「納得されていない方もいたと思います」というトンチンカンな答弁をしています。

説明会場へ行った人なら、ほぼ全員が納得していないのは誰の目にも明らかなのに「納得されていない方が少数いたかも」という程度の認識には聞いた口がふさがりません。

7ヶ月も待たせておいて、僅か15分の説明で本市に責任がないと言いつつ野志市長に、住民は改めて失望したのではないのでしょうか。

今まで住民から出ていた質問状に回答していないこともあり得ませんが、住民からは本市から初めて出された資料に対し、その内容を十分確認した上で質問できる説明会を再度開くよう要求がありましたが、それにはつきりとした返事を出さないから、今回この請願が出たのではないのか。

7ヶ月放置しておいて、15分説明したら説明責任を果たしたと考えているのか、1度の説明会で幕引きを図りたいという姿勢が見え見えでは、住民の不信感が増すばかりであり、何度説明会を開いても市長も議員も職員も真剣に被災者市民に向き合う必要があるという事を申し上げて私の賛成討論とします。

議会質問

梶原ときよし

3月議会（新風会）
代表質問より抜粋

2025年
3月3日

被災住民を7ヶ月も放置

説明会
怒号の渦

「あなた達は信用できない!!」

昨年7月12日の事故から7カ月たつて、やっとのこと城山土砂崩れの説明会を開いたが、市長は被災住民に対し一人でも多くの方に納得してもらおう気持ちはあるのか。

梶原議員の質問

事故から7カ月たつて、2月24日に開いた住民説明会だが、市長は住民に事故の責任を含め十分納得していただけたと思うのか。イエスかノーで答えよ。併せて理由も述べよ。

開発建築部長の答弁

「7か月ほつたらかしであった。」市の想いは何も響かなかった。」など、厳しい意見もあり納得をされていなかった方もいたと思いますが、今後個別に丁寧に対応していきたいと考えています。

説明を理解したとか、納得したとか発言された住民は、一人もいませんでした。

梶原議員の質問

当日、私を含め新風会の議員だけは傍聴した。私の予想どおり市民の誰一人納得して帰った人はいなかったと思うが、原因は何か。

開発建築部長の答弁

市の見解と住民の皆さまの考え方に相違があったことと考えています。

梶原議員の質問

私が思うに、住民が一番怒っているのは市長が屁理屈を言つて住民が何度も申し入れた住民説明会を開かず、7カ月も放置したことではないのか。技術的な説明もしかりだが、まずは被災住民に寄り添う市長の姿勢が、全く足りないと思うがどうか。

開発建築部長の答弁

災害の原因が特定されなければ、責任ある対応が出来ませんので、検討委員会の結果が出るのを待つておりました。検討結果がとりまとめられて、この時期になったものです。

梶原議員の質問

地盤工学の専門家である徳島大学の教授は、地盤構造物を設計する前には地質・土質の調査をするのが一般的で、傾斜地地盤上に構築する場合に必須だと指摘しているが、地質・土質などの地盤調査や地耐力調査も行わず、斜面に重力式擁壁を設置したのはあまりに軽率であり、事故の結果も含め大きな瑕疵があったのではないかと。

開発建築部長の答弁

地質調査をしなかったことに問題はなかったと判断しています。

また、災害前に道路が変状した際には、速やかに擁壁等を撤去するなど、適切に管理を行つており、市に瑕疵があったとは考えていません。

傾斜地で、しかも盛土の軟弱地盤に重い構造物を作るといふのに、地質調査も地盤補強も行なわなければ、擁壁が崩れる事は土木の専門家でもとても容易に想像がつく話です。

梶原議員の質問

本市の建築確認申請に地盤調査報告書が必要ではないのか。

開発建築部長の答弁

建築基準法では、建築確認申請書に、原則、地盤調査報告書などの基礎・地盤説明書の添付が必要ですが、建築物の建築に関する確認の特例に該当すれば、報告書の添付が不要となる場合があります。

緊急車両用道路の擁壁は該当したのか？

梶原議員の質問

斜面変形に影響を与えた可能性の一つに高さ30メートル以上の巨木の存在が荷重増加の影響を与えたところがあるが、この樹木管理について本市に責任はないのか。また、城山の樹木管理は誰が行っているのか。その管理会社に樹木医や造園施工管理技士は何人いるか。

開発建築部長の答弁

樹木の維持管理は、指定管理者である株式会社レスパスコーポレーションに委託しています。また、指定管理者に樹木医や造園施工管理技士はいません。

樹木を守る技術者がいない会社に樹木管理を請負わせている事が、事故を誘発させた一因でもあるのではないかと。

梶原議員の質問

緊急車両用道路の本復旧に伴う道路擁壁工事について、岩盤地層まで特殊な鋼管杭を打つようだが、初めからこの常識的な工法を取つていれば、今回の事故も回避できた可能性が高い。野志市長は本市の責任を認めて被災者に寄り添い十分な賠償を行うべきと考えるがどうか。

開発建築部長の答弁

賠償については、緊急車両用道路の設計・施工に問題はなく、また、本市として今回の災害を予見したり、その結果を回避することは不可能だったと考えられますので、その管理に瑕疵があったとは言えません。したがって、国家賠償法に基づく賠償は難しいと判断しました。

梶原議員の質問

7カ月も待たせておいて、僅か15分の説明で本市に責任がないと言いつつ野志市長に、住民は改めて失望したのではないかと。今まで住民から出ていた質問状に回答していないことも、あり得ないが、住民からは本市から初めて出された資料に対し、その内容を十分確認した上で質問できる説明会を再度開くよう要求があったが、なぜ「納得していただくために開きます」と即答しないのか。

開発建築部長の答弁

先日実施した市の説明会では、説明できることは可能な限りお伝えしたと考えています。

緊急車両用道路の設計・施工に問題なしとした城山土砂崩れ原因説明の矛盾と本市の責任について

梶原議員の質問

松山市緑町土砂災害対策技術検討委員会の報告書では
①斜面変形、②土砂流出、③土砂流下を経て発生したと推定とあるが、
①斜面変形には緊急車両用道路の擁壁・盛土荷重が影響を与えた可能性がある結論付けている

伊予鉄道に坊っちゃん列車運行支援として、新たに2000万円もの補助金を出すとは、伊予鉄道の言いなりなのか、それとも忖度なのか。

梶原議員の質問

伊予鉄道が運行する坊っちゃん列車に対する補助金はこれまで約1億1500万円になる。2025年度当初予算に坊っちゃん列車運行支援事業として新たに2000万円が計上されているが、市民の意思はクラウドファンディングの寄附（寄附者199人、金額283万円）が示すように、自分のお金税金を出してまで坊っちゃん列車を運行するべきという市民は0.04%で、1万人中僅か4人しかないという見方もできる。いいかげん伊予鉄道の言いなりになるのをやめてはどうか。

藤田副市長の答弁

坊っちゃん列車は、人手不足や運行赤字を要因に運休しましたが、本市観光産業に与える影響への懸念から、経済団体や観光関連団体などから運行再開に向けた協議や検討、支援の要望がありました。坊っちゃん列車の安全かつ継続的な運行を支援するため、車両の法定検査やメンテナンスに係る費用を補助することとしたもので、伊予鉄道の言いなりで判断したものではありません。

梶原議員の質問

市民の支持がないのに、運行継続を支援することで観光産業の活性化を図るとしてこじつけたが、私には伊予鉄道に市民の税金で付度するものとは思えない。本市は伊予鉄道の打出の

道路荷重が①斜面変形に影響を与えたとするれば、①がなければ②土砂流出、③土砂流下の現象は起きなかったものであり、本市に責任がないとは言えないのではないかと。

開発建築部長の答弁

本市として今回の災害を予見したり、その結果を回避することは不可能であったと言わざるを得ませんので、その管理に瑕疵があったとは言えないと判断しています。

庁内雑音のヒトコマ

職員 A
市民 3 人が亡くなるという大災害。本市が管理する城山で起きたのに、事故から 7ヶ月も説明会を開かず放置とはダメですよネ!!

職員 B
市長は、市に責任が無いなどと？バカじゃないの!! 2015年2月の松山市防災マップには急傾斜地崩壊危険箇所と表示しておきながら「災害が予見できなかった」とは、どうゆう事よネ!!

はい。

野志市長は、本市の責任を認めて被災者に寄り添う必要があります!! 城山の盛土傾斜地軟弱地盤に地耐力調査もせず重い重力式土留を造れば擁壁が崩れる可能性がある事は素人でもわかる話です。無知による責任逃れはあってはなりません。

梶原議員



梶原ときよし(新風会)

2010年の初当選以来4期15年目、全定例市議会60議会連続登壇を続けています。(松山市議会：連続登壇記録更新中)